宇部工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	現代社会 B	
科目基礎情報						
科目番号	41005	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	物質工学科	対象学年	1			
開設期	4th-Q	週時間数	4			
教科書/教材	「高等学校 新公共」(第一学習社)、「クローズアップ公共 2023」(第一学習社)					
担当教員	山下 大喜					
到達目標						
<p>①現代の国際社会が平和を守るため行ってきた工夫を説明できる。第二次世界大戦後の国際社会がどのような歴史を歩んできたのか、そのなかで日本がいかなる役割を求められているかを説明できる。</p> <p>②現代経済について経済原理、企業、市場、経済成長、景気、物価、財政、金融、産業、労働、消費者、社会保障という観点から説明できる。</p> <p>③貿易、国際収支、為替相場について説明できる。現代の国際経済の動向、およびそこで起きている問題とその対応策について説明できる。</p>						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限のレベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目1	現代の国際社会が平和を守るため行ってきた工夫を論理的かつ詳細に説明できる。第二次世界大戦後の国際社会がどのような歴史を歩んできたのか、そのなかで日本がいかなる役割を求められているかを論理的かつ詳細に説明できる。	現代の国際社会が平和を守るため行ってきた工夫を論理的に説明できる。第二次世界大戦後の国際社会がどのような歴史を歩んできたのか、そのなかで日本がいかなる役割を求められているかを論理的に説明できる。	現代の国際社会が平和を守るため行ってきた工夫を説明できる。第二次世界大戦後の国際社会がどのような歴史を歩んできたのか、そのなかで日本がいかなる役割を求められているかを説明できる。	現代の国際社会が平和を守るため行ってきた工夫を説明できない。第二次世界大戦後の国際社会がどのような歴史を歩んできたのか、そのなかで日本がいかなる役割を求められているかを説明できない。		
評価項目2	現代経済について経済原理、企業、市場、経済成長、景気、物価、財政、金融、産業、労働、消費者、社会保障という観点から論理的かつ詳細に説明できる。	現代経済について経済原理、企業、市場、経済成長、景気、物価、財政、金融、産業、労働、消費者、社会保障という観点から論理的に説明できる。	現代経済について経済原理、企業、市場、経済成長、景気、物価、財政、金融、産業、労働、消費者、社会保障という観点から説明できる。	現代経済について経済原理、企業、市場、経済成長、景気、物価、財政、金融、産業、労働、消費者、社会保障という観点から説明できない。		
評価項目3	貿易、国際収支、為替相場について論理的かつ詳細に説明できる。現代の国際経済の動向、およびそこで起きている問題とその対応策について論理的かつ詳細に説明できる。	貿易、国際収支、為替相場について論理的に説明できる。現代の国際経済の動向、およびそこで起きている問題とその対応策について論理的に説明できる。	貿易、国際収支、為替相場について説明できる。現代の国際経済の動向、およびそこで起きている問題とその対応策について説明できる。	貿易、国際収支、為替相場について説明できない。現代の国際経済の動向、およびそこで起きている問題とその対応策について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	第4学期開講 本講義は、高専5年間で学習する社会科諸科目の導入的な役割も担っている。そのため、1つのテーマについて深く掘り下げていくよりも、現代社会が抱える様々な問題について幅広く確認することを目的としている。					
授業の進め方・方法						
注意点						
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		
☐ 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	4thQ	9週	ガイダンス 国際政治の動向	シラバスの内容を説明できる。国際平和を守るためどのような工夫がなされているか、また冷戦終結までの歴史的展開を説明できる。		
		10週	国際政治の動向 現代の経済—経済原理と現代の企業—	冷戦終結後の歴史的展開と日本が求められている役割を説明できる。経済、企業について説明できる。		
		11週	現代の経済—市場のしくみ、財政—	市場のしくみ、経済成長、景気、物価を説明できる。財政のしくみと目的について説明できる。		
		12週	中間試験	前半の内容を整理する。		
		13週	現代の経済—金融、現代の産業と労働—	金融のしくみと目的、金融機関の役割を説明できる。日本の産業・労働の問題点について説明できる。		
		14週	現代の経済—消費者主権と社会保障制度—	消費者や社会的弱者がどのように守られているかを説明できる。		
		15週	国際経済の動向	貿易、国際収支、為替相場について説明できる。現代の国際経済の動向、およびそこで起きている問題とその対応策について説明できる。		
	16週	まとめ、期末試験、試験返却	後半の内容を整理する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	2	後9,後10,後12,後15,後16
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	1	後9,後10,後12,後15,後16
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	後3,後9,後10,後12,後15,後16

			19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	1	後9,後10,後12,後16
		公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	後10,後11,後12,後13,後14,後16
		現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	後10,後15,後16

評価割合

	期末試験	パフォーマンス課題	ポートフォリオ課題		合計
総合評価割合	55	35	10	0	100
基礎的能力	55	35	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0